



## 奈良県における後発医薬品安心使用 促進事業の取り組みについて

奈良県福祉医療部医療政策局薬務課

### (1) 後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用状況について

奈良県における後発医薬品の使用割合（調剤レセプト（電算処理分）のみ）は令和元年12月時点で77.8%（40位）で、全国平均の79.9%と比べ、約2%低い値となっています。また、昨年同時期75.4%からの伸び率は2.4%です。さらにジェネリック医薬品の使用割合を伸ばすためには、県民の方へのさらなる普及啓発と病院、診療所、薬局等の医療関係者の協力がとても重要であると考えています。

### (2) 取り組み

奈良県では、ジェネリック医薬品使用促進のため、平成20年より学識経験者、医療関係団体、保険者、消費者団体及び製薬団体（日本ジェネリック製薬協会）を構成委員とした「奈良県後発医薬品適正使用等協議会」を設置し、平成25年からは「奈良県後発医薬品安心使用促進協議会」に改称し、県の附属機関として、県民及び医療関係者がより安心してジェネリック医薬品を使用することができるように取り組みを行っています。

また、平成30年に策定した第3期奈良県医療費適正化計画の下、地域の実情に合わせた効果的な施策を行うために、平成30年度より桜井市及び大和高田市、令和元年度には橿原市において「医薬品適正使用促進地域協議会」を発足し、医療費の適正化に向けた取り組みを行っています。ここでは、地区医師会、地区薬剤師会、中核病院、訪問看護ステーション、保険者、市町村、県が連携し、ジェネリック医薬品の使用促進と重複多剤投薬の対策に取り組んでいます。

#### ① 薬剤師からの普及啓発

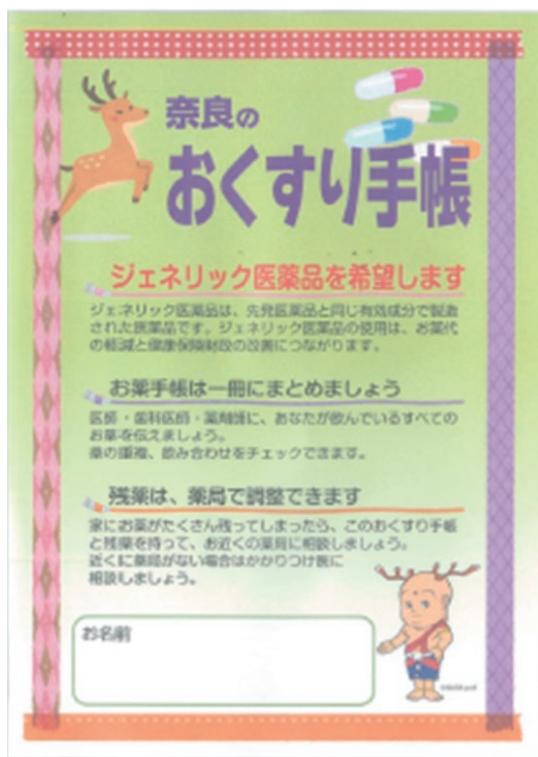
令和元年度より、奈良県薬剤師会と協力し、薬剤師による出張セミナーを開催しています。商業施設及び医療機関等における健康イベントにおいて、ジェネリック医薬品を使用することの意義について、県民へ啓発しています。

#### ② お薬手帳のカバーを用いた普及啓発

平成30年度、令和元年度で延べ40000枚作成し、薬局及び病院から患者へ、奈良県保険者協議会から被保険者へ、健康イベント等で県民へ、幅広く配布を行うことで普及啓発を行っています。

お薬手帳カバーには、「ジェネリック医薬品を希望します」と記載し、病院・診療所・薬局に提出するだけで、ジェネリック医薬品を希望していることを伝えることができるように工夫しました。

(お薬手帳カバー)



(表紙)



(裏表紙)

### ③薬剤師が選ぶジェネリック医薬品アドバンテージリストの作成

「薬剤師が選ぶジェネリック医薬品～ジェネリック医薬品アドバンテージ情報～」で、従来から何らかの理由によりジェネリック医薬品への移行があまり進んでいない医薬品について、県薬剤師会、県病院薬剤師会及び日本ジェネリック製薬協会ご協力のもと、リストを作成しました。移行があまり進んでいない医薬品の他、ジェネリック医薬品メーカーが特に推奨したい品目のアドバンテージ情報（先発品より優れているおすすめポイント）を医師・薬剤師に提供し、ジェネリック医薬品を選択する際の参考にしていただくためのものです。本リストについては、関係団体のホームページに掲載いただいています。

### ④ジェネリック医薬品使用割合の低い医療機関への訪問

医療関係者への意識付けを目的として、県薬務課、県医療保険課、及び協会けんぽ奈良支部が、ジェネリック医薬品使用割合の低い病院への個別訪問を実施しています。当該病院のジェネリック医薬品使用状況をデータで示し、病院長、事務長及び薬剤部長との意見交換を通じて、個々の病院に合わせた使用促進の方法を検討しています。



## ⑤病院採用後発医薬品リストの公表

ジェネリック医薬品は品目数が非常に多く、医療関係者にとってジェネリック医薬品採用のための情報収集・評価が大きな負担となっています。医療機関や薬局においてジェネリック医薬品を採用する際の参考としていただくことを目的に「採用後発医薬品リスト」及び「採用基準」の公表を行いました。

県内の79病院中、リストの公表にご賛同いただいた23病院について、保健医療圏ごとに薬務課ホームページ（<http://www.pref.nara.jp/53776.htm>）でリスト等を掲載しました。令和2年度も更新を予定しており、新たに提供頂いた病院については、随時掲載していく予定です。

## （3）令和2年度の取り組みについて

奈良県後発医薬品安心使用促進協議会委員を対象としたジェネリック医薬品の製造工場の見学を実施予定です。

当該協議会は、前述のとおり医療関係団体、消費者団体、保険者等の代表が委員として参加しており、委員のジェネリック医薬品への不安を払拭し、信頼を得ることは重要であると考えています。工場見学を通じて、後発医薬品への理解がより一層深まることを期待します。